

慢性硬膜下血腫

脳は硬膜という膜で被われています。慢性硬膜下血腫は、この硬膜と脳との間に古い血液が徐々に貯留し、脳を圧迫することで運動麻痺や意識障害を起こす病気です。高齢者に多く、頭部打撲の後、1～2ヶ月時間が経って起こるのが特徴です。頭部打撲は軽微なものから、交通事故によるものまで様々です。また時々、左右両方に血液がたまることもあります。この病気は、治療方法も確立されており、適切な診断と治療を行えば予後は非常に良い病気です。

◆症状

軽度の頭痛、急に物忘れがひどくなる、眠りがちになる、ボタンの掛け外しがしにくい、箸がうまく使えない、お茶碗などの軽い物を落とし易くなる、歩行時ふらふらしたり、つまづきやすいなどの極く軽い運動障害などがみられます。

◆診断

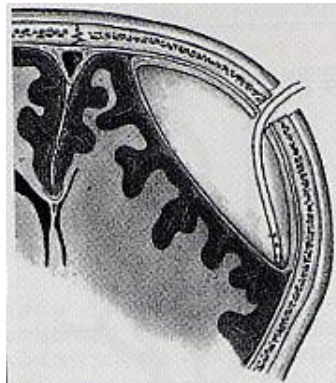
CT、MRIにて診断可能

◆治療法

一般に局所麻酔で、頭蓋骨に人差し指大の大きさの穴を1つ開けて、中に溜まった血液を洗い流し、最後に細い管をいれる手術です。手術時間は約30分から1時間程度で終了します。穿頭血腫除去ドレナージ術と呼びます。



手術前



穿頭血腫除去
ドレナージ術



手術後

◆手術に伴う危険性や合併症

- 1 血腫の再発、反対側の血腫貯留：約12から14%の患者さんに起こることがあり、その場合には再度手術が必要です。
- 2 感染症：手術開始前から抗菌剤（抗生剤）を使って、細菌感染が起こらないように努めますが、まれに感染を起し、髄膜炎や硬膜下膿瘍の治療が必要になることがあります。
- 3 けいれん：極くまれに起すことがあり、抗けいれん剤の内服治療が必要になります。
- 4 緊張性気脳症：たまった血腫を抜いたあとに、今度は空気がたまって脳を圧迫して頭痛や嘔吐、運動麻痺、けいれんを起すことがあります。この場合、再手術で空気を抜く必要があります。
- 5 脳内出血：たまっていた血液を除去することで、急激に圧が下がって脳内に出血を来すことがまれにあります。

◆その他

- ・ 合併症・偶発性が発生した場合は最善の処置を行います。なおその際の医療は通常保険診療となります。
- ・ いったん同意書を提出しても、治療が開始されるまでは本治療を受けることをやめることができます。やめる場合にはその旨を連絡してください。